

「流れ汗が止まらない」「夏の汗かきむしに  
「衛益顆粒（えいえきからむじ）」「

衛気は体表のバリア

連日、猛暑が続いており、今年の夏も熱中症の予防のために水分を摂る機会が増えています。「汗をかきから」と水分を控える方もいらっしゃるかもしれませんが、汗は体温調整を行っていて体温が上がると汗を出して体温を下げています。

ところが汗をかかほどの状況でもないので、頭や顔、わきの下など必要以上に大量の汗が出て、皮膚の表面が汗でびっしょりと濡れてしまう「多汗症」の方がおられ、仕事や日



常生活に支障をきたしているらしいです。

漢方では病気を防ぎ体を健康に保つとつとつする力を「正気（せいぎ）」といい、正気のバランスを乱し、病気をもたらすものを「邪気（じやく）」といいます。外界からの邪気の侵入を体表部で防衛する力を「衛気

（えき）」といい、皮膚や粘膜など体表部で絶えずバリアを張りめぐらして外部から体を守っています。しかし、衛気が不足すると汗をかきやすくなるほか、寒冷刺激に対する防衛力が落ちるために風邪をひきやすくなったり、温度変化に順応しにくくなるために鼻炎になったりします。先ほどの「多汗症」の方も衛気不足により毛穴の開閉をコントロールできなくなってしまうからと考えられます。

衛気不足には黄耆（オウギ）

不足してしまった衛気を増強するために漢方では昔から黄耆（オウギ）という生薬がよく用いられてきました。黄耐は体表や粘膜周辺の細胞を元気づけ、衛気の働きを活発にし、毛穴の開閉をコントロールして不要な汗の漏れを防ぐ効果があります。この黄耐を中心に、胃腸の働きを高める白朮（ビャクシュツ）、風邪の侵入を防ぐ防風（ポウフウ）を組み合わせた「玉屏風散（ぎよくへいふうさん）」と呼ばれる処方があります。玉（宝石）の屏風（びょうぶ）が外敵から守ってくれるという意味で、中国では風邪、花粉症、インフルエンザ、多汗症、喘息など衛気の不足からおこると考えられる症状の特効薬として使われてきました。これを製剤化した「衛益顆粒（えいえき

かりゆう）」で多汗症を改善し、快適にこの夏を乗り切りましょう。



・イスクラ産業「衛益顆粒」

九〇包入り（三〇日分）

八、〇〇〇円＋税



(C)イスクラ産業株式会社

「衛益顆粒」についての「ご相談」は店頭だけでなく、お電話でも受け付けております



「健康的にダイエット！」なら「マイクロダイエット」をお試しください

マイクロダイエット正規取扱店 **ゆがの薬局**

賀茂郡河津町浜149-4 TEL0558-34-0150

当店ウェブサイト <http://www.yugano-ph.co.jp>